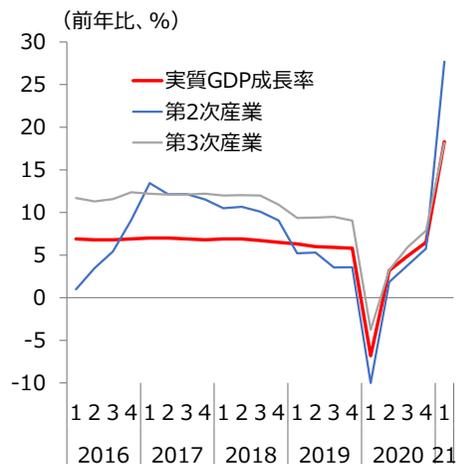


## 中国

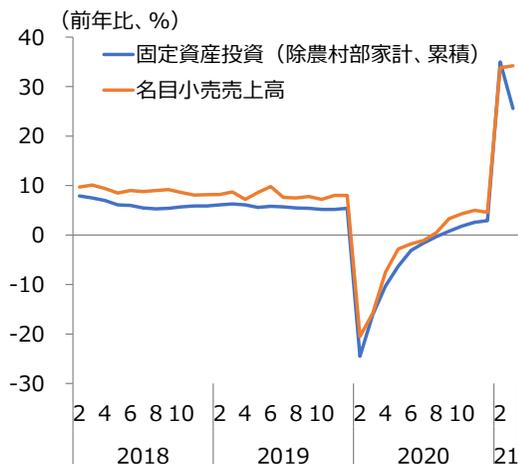
GDP (2021年1-3月) および小売・投資 (2021年3月)  
製造業主導の景気回復が進展政策・経済センター  
橋本 拓摩  
03-6858-2717

## 1 実質GDP成長率



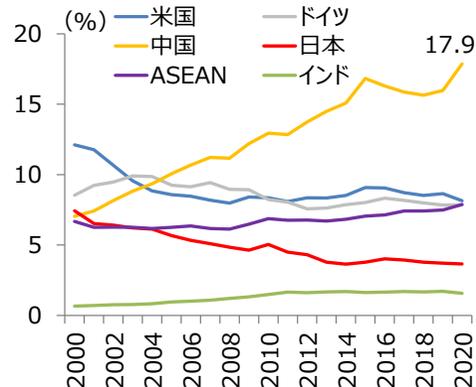
出所：CEICより三菱総合研究所作成

## 2 固定資産投資と小売売上高

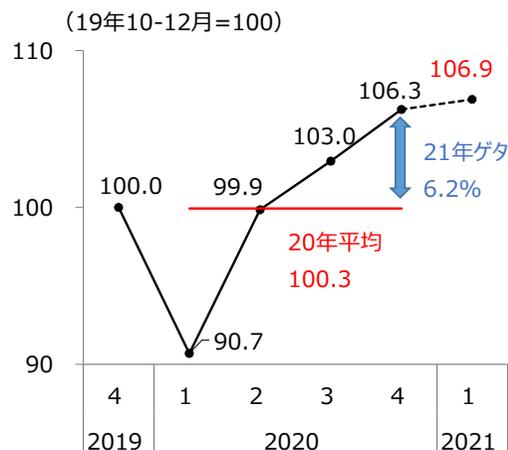


出所：Windより三菱総合研究所作成

## 3 世界の財輸出量に占める各国・地域別輸出のシェア

注：中国は香港、マカオを含む。  
出所：UNCTADより三菱総合研究所作成

## 4 実質GDP (季節調整値)



出所：Windより三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 21年1-3月期の中国の実質GDP成長率は、前年同期比+18.3%と大幅なプラス成長となった(図表1)。特に第2次産業の実質GDP成長率が同+27.7%の大幅増となった。ただし、季節調整済み前期比の伸び率は+0.6%と前期+3.2%から減速した。
- 3月の固定資産投資(年初来累計)は前年比+25.6%と大幅なプラスとなった(図表2)。セクター別にみると、製造業投資が同+37.3%と前期と同値の高い伸びとなった。
- 3月の名目小売売上高は外出制限措置が採られた前年同期の反動が大きく、前年比+34.2%と大幅な伸びとなった(図表2)。

## 基調判断と今後の流れ

- 新型コロナウイルスの感染拡大が本格化した前年の反動という特殊要因を割り引く必要はあるも、好調な輸出による牽引、さらには民間の固定資産投資、特に製造業投資の回復傾向が鮮明となっている。
- コロナ危機を経て中国の財輸出の拡大が続いており、世界の財輸出量に占める中国から世界に向けた輸出のシェアが20年に17.9%に達するなど、世界貿易での中国の存在感が益々高まっている(図表3)。しかし、ワクチン接種の進む米国で経済活動が正常化に向かい、サービス消費が回復していく中、電気製品などの特需は剥落し、中国からの財輸出は21年後半には徐々に減速しよう。
- 20年の中国経済は1-3月をボトムに右肩上がりの景気回復のパスを辿ったため、21年の実質GDP成長率は高い「ゲタ」が反映される。20年の成長率平均に対する20年10-12月の水準の乖離率を計算すると6.2%となる(図表4)。
- 今後、政策支援等を受けて不動産、インフラ投資は引き続き堅調に推移し、また特に5Gネットワークの整備・活用といった「新型インフラ」分野での設備投資は拡大しよう。さらに民間消費が緩やかなペースで回復することを想定し、21年の実質GDP成長率は前年比8%台半ばになると見込む。